



編集月旦 2013年6月号

★三浦雄一郎さんが70歳、75歳につづいて80歳でエベレスト登頂に成功しました（5月23日）。世界初の快挙です。昭和7年（1932年）10月12日の生まれ。三浦さんの成功は、同年輩のとくに男性のみなさんに力を与えてくれたことでしょう。

☆日ごろの身体の「アンチエイジング」の重要性を主治医の白澤さん（加齢制御医学）が述べています。性格が前向きであること。からだ・こころ・ふるまいにおいて若いこと。60歳台の体力、負荷をかけての外出、将来にむかって「夢」を持ちつづけること。

★大正生まれ（88歳＝米寿以上）のみなさんに申し訳なく思います。戦中には戦場と銃後をまかされ、敗戦で捨て置かれ、戦後（昭和20年には20歳～34歳）の復興を負わされ、いま晩年には黙止されて生きる・・・これでは日本が国際的に先行する「高齢社会のモデル」をつくっているなどといえません。

☆戦争で夫を失ってひとり暮らしで子どもを育ててきたはての病の床で、慰めてくれるのは幼い日に母さんが教えてくれた童謡です。それを口ずさんで日々耐えている女性高齢者。「三世代年表」で見ると童謡は大正時代に集中してつくられて、戦中・戦後をうたわれて、みんなの心を温めてくれました。放射能に汚染された被災地のみなさんが歌う「ふるさと」には万感の思いがこめられていました。

★鳩山総理は施政方針演説で「ひとり暮らしのお年寄りが誰にもみとられずに死を迎える」いたましい事例をとりあげましたが、「人からカネへ」の安倍総理も麻生副総理も、この国を支えてきた高齢者へのねぎらいを口にしません。億兆円のカネで人を動かす政治家には、語るべき課題ではないのでしょうか。

☆「アベノミクス」の「成長戦略」がさまざまな領域で格差を生んでいます。企業ではトヨタとパナソニック。世代・個人でみると、年金暮らしのお年寄りは置き去りです。それどころか格差のはざままで医療・介護・認知症の「三つの負担」が重荷にされて語られ、後人からの敬意も薄れ、苦勞してこしらえた「みんなで等しく豊かになる社会」から「豊かになれるものはなれ」という途上社会へとむかっています。

★政治リーダーの発言が、わが国の「国際的孤立」を深めています。アメリカ・ロシア・中国という大国にはさまれた「小日本」は、どう平和を守り、国際的に認められる国として立っていくのか。平和主義を貫く将来構想が求められています。「特性を活かした地域の活性化」は、国防軍にたよらずに国防意識と平和主義を強くします。「強い地域」なら誰が異論を唱えるのでしょうか。高齢者は「戦争を知らない」現役世代に生の原体験を伝えて「平和憲法」護持の潮流を強くする機会とすべきでしょう。

★富士山が世界文化遺産に登録されました（6月22日）。富士を筆頭に、四季折り折りの優美な風物や伝統文化が処々に息づく日本、一生に一度は訪れてみたい国・日本に。

春。咲き誇る桜・さくら・サクラの下で地酒を酌みつつ語り・・・

夏。浴衣を着て縁台に坐してうちわで涼をとりつつ棋に向かい・・・

秋。温泉に浸かりつつ暮れなずむ紅葉を愛でてのち和膳に着き・・・

冬。青い空に際立つ冠雪の富士を眺めつつ一服の茶と菓子に潤い・・・

やはり一生に四度は訪れてほしい平和な国・日本に。

★一人ひとりが長寿を喜べる「日本長寿社会」の達成とアジアに住むみんなが等しく豊かさを享受する「アジアの共生」は、ふたつながら平和の証であり日本高齢者の課題であり本誌の課題です。（編集人 記）

